

第4回 北区まちづくり懇話会について

1. 平成29年度(第1回～第3回)での意見について

- ・ イベント通して繋がり輪を広げる
(課題: 若い世代の参加が少ない。つながり輪が広がらない。)
- ・ 良好なコミュニティ形成には「笑顔」が必要
(課題: 笑顔で対話する機会が少ない)
- ・ 高齢者の見守りは積極的に進める
(課題: 一部で講座等の開催はあるが不十分)
- ・ 子育て世代などの若い世代の健康づくりや情報交換の場の充実
(課題: 子育て世代は健康意識が疎かになりがち。子育ての情報共有の拡充。)
- ・ 地域のリーダーシップをとれる人材の育成が必要
(課題: リーダーの単一化、高齢化、担い手不足。)
- ・ 若い世代を取り込み、多世代、地域間の情報共有のためにSNSを活用
(課題: 情報共有のツールがない。)

2. 意見からみえてきた「まちづくりの方針」の提案

方針1 「誰もが楽しく集い、「笑顔」が広がる「場」の創出」

- ・ イベント通して繋がり輪を広げる
- ・ 良好なコミュニティ形成には「笑顔」が必要
- ・ 地域のリーダーシップをとれる人材の育成が必要
- ・ 若い世代を取り込み、多世代、地域間の情報共有のためにSNSを活用

方針2 「健康の大切さを知り、お互いを思いやり支え合う気持ちの醸成」

- ・ 高齢者の見守りは積極的に進める
- ・ 子育て世代などの若い世代の健康づくりや情報交換の場の充実
- ・ 地域のリーダーシップをとれる人材の育成が必要
- ・ 若い世代を取り込み、多世代、地域間の情報共有のためにSNSを活用



北区まちづくりビジョン「ず～っと住みたい“わがまち北区”」を目指す！

3. 第4回懇話会での意見交換(ワークショップ)について

提案する2つの方針について、実現ができるできないに関係なく、自由に意見交換(ワークショップ)を行い、「地域で行えること」、「行政にしてほしいこと」、「地域・行政等で協働して行うこと」などの意見を整理し、次回の懇話会へつなぐ。

4. 第3回懇話会の分野別意見および取り組み状況について

分野

防犯・防災、地域づくり

第3回北区まちづくり懇話会(ワークショップ)

【描きたい姿】 笑顔

【キーワード】 小さなイベントをする、飲みニケーション

【主な意見】 身近なところで小さなコミュニティを作り、小さいイベントを開催しながら関係を深めていく中で、段々広げていく。

同じ場にいること、その場を共有すること、そこで和気藹々することが、結果的につながりになるので、その様な場はすごく重要。

テーマ「笑顔」としただけで、すごい和気藹々と笑いの絶えないワークになったので、「笑顔」という言葉はすごく大事。

北区における取り組み状況

〔地域での取り組み〕

北区内の校区単位で、多くのイベント(夏まつり、健康まつりなど)が開催されている。

〔行政の取り組み〕

区において、区民の一体感の醸成を目的にこどもまつり(主催:実行委員会)を開催しているが、北区全域を対象としていることもあり、それぞれの地域づくりに繋がりというより、賑わいづくりに繋がる内容となっている。

また、会場が区役所周辺ということもあり、交通アクセス上、植木地区と北部地区の来場者が多い傾向にある。

第3回北区まちづくり懇話会(ワークショップ)

【描きたい姿】 「健康・長寿」 ~生まれてから死ぬまで~

【キーワード】 交流型イベント、予防・発見

【主な意見】 現在実施されている運動会、グランドゴルフやウォークラリーをさらに輪を広げていく。

車椅子の方など障害者の方が運動できる場所が少ない。

食事は子供から高齢者まで関わるので、地域の料理自慢の方や食生活改善推進員の活用した食育を行う。また、子供食堂は小規模で行われているが、どんどん広げてほしい。

高齢者は認知症というのがキーワード。認知症サポータ養成講座の開催はどんどん進めてほしい。

若い世代にも骨密度や血糖検査などやっていただきたい。

小さい子の母親のケアが必要なので、子供の健診を受けている間に母親の健診の受診や子育ての情報交換を行う。

北区における地域の取り組み状況

〔地域での取り組み〕

北区内の校区単位で、多くのスポーツイベント(運動会、ウォーキング大会、グランドゴルフ大会など)が開催されている。

また、市では、「健康まちづくり」を校区単位で進めており、各地域で課題解決のための話し合いや認知症徘徊模擬訓練などが取り組まれている。

〔行政の取り組み〕

区において、区民の一体感の醸成を目的にいきいき交流スポーツ大会(主催:実行委員会)を開催している。大会では、グランドゴルフ、ビーチバレー、パークゴルフの3種目を障がいをお持ちの方や小学生を含めて校区対抗で開催し、地域間・世代間の交流を図っている。

また、地域団体からの養成に応じて開催する出前講座の制度で、認知症サポータ養成講座や食生活改善講習などが可能であるため、積極的な活用を勧めている。

なお、子育て世代(1歳6ヶ月・3歳児健診の同行者)を対象とした健診等や情報交換の場に係る取り組みを平成30年度から開始する予定としている。

第3回北区まちづくり懇話会(ワークショップ)

【描きたい姿】 「世代間・地域間交流」

【キーワード】 スマホ、情報を共有・活用する場所

【主な意見】 コミセンの活用やいろいろなイベントの開催も必要だが、人を呼び込むだけが交流ではない。

今はネットワーク上で情報を共有することで交流にもつながる。

子供たちもスマホを持っているので、スマホなどを活用した情報を共有・活用する場所が必要。(子供たちが撮影した地域の写真を共有して、高齢者の方がそれを見て交流につなげる)

北区における地域の取り組み状況

〔地域での取り組み〕

各地域で、多種多様なイベント(各種まつり、スポーツイベントなど)が開催されて、交流が図られているが、SNSを使用した取り組み例はほとんどない。

〔行政の取り組み〕

市では、ホームページ・フェイスブック・ツイッター・LINEを活用し、広範囲にリアルタイムな情報発信に努めている。

熊本市北区公式フェイスブックでは、まちづくりセンターの地域担当職員を中心に北区役所からの行政情報や地域情報の発信を行っている。

また、3月26日に公開された熊本市公式LINEでは、市からの行政情報や市職員が収集した地域情報を、ご希望(世代、性別、校区、ほしい情報)に応じて受け取ることができるようになっている。

小学生を対象とした「ひまわり」の絵画コンクールを開催し、まちづくりセンターの巡回展示等を開催している。

第3回北区まちづくり懇話会(ワークショップ)

【描きたい姿】 「住みたい つながる 美しいまち」

【キーワード】 人口、交通

【主な意見】 住みやすくする施策を実現するには、まずは人。若い世代が増えて、北区で子育てをしてもらい、人口を減らさないようにして、地域のリーダーシップをとれるような人材を育成する必要がある。

若い方たちを呼び込むため、イベント等ではSNSを使ったアピールをする。

子育てしやすい環境には支援が必要。子育ての知識がある高齢者を活用する。

レジャー施設が少ないので誘致をする。例えばコストコを植木に誘致するなど。車の運転ができない高齢者のために、スクールバスなどの空き時間を活用してシャトルバスを運行する。

北区における地域の取り組み状況

〔地域での取り組み〕

北区内の校区単位で、多くのイベント(夏まつり、健康まつりなど)が開催され、それぞれの地区で魅力ある地域づくりが進められている。

〔行政の取り組み〕

市(区)では、ホームページ・フェイスブック・ツイッター・LINEを活用し、広範囲にリアルタイムな情報発信に努めている。 経済・農業、都市づくりの分野を参照

定期的に育児相談やパパママセミナーなど子育てしやすい環境に向けての取り組みを行っている。また、各まちづくりセンターを中心に地域の担い手を育成する取り組みを進めている。

公共交通が不便な交通空白地域では、デマンドタクシーやコミュニティバスの運行を行っている。植木駅から北区役所を巡回するゆうゆうバスについては、地域の意見を受け、4月に道の駅まで延伸するなど、地域の足としての見直しも図られている。